令和７年度

所　　報

鳥取市教育委員会
鳥取市総合教育センター

令和７年度

所　　報

鳥取市教育委員会
鳥取市総合教育センター

は　じ　め　に

平成１９年４月に設置された当センターは、令和７年度で１９年目を迎えました。

鳥取市が中核市として教職員研修を担い始めて８年目となりました。教育現場を取り巻く状況は引き続き大きく変化しています。そこで、総合教育センターでは、鳥取市の重点取組である「豊かなかかわりによる自己有用感の育成」と「魅力と徹底による学力の向上」を柱とし、より効果的な研修の実施に向けた見直しを行いました。具体的には、「特別支援教育」や「ＩＣＴ」の充実に関する研修に重点を置き、内容の整理・改善を進めています。あわせて、若手育成のための基礎的研修や講師研修を新設したほか、中堅教諭等資質向上研修によるミドルリーダーの育成にも注力しております。また、喫緊の課題である「学力向上」についても、基本研修や研究主任を対象とした「授業づくり研修」を通して、組織的な指導力の向上に取り組んでいるところです。

今後も、鳥取市のめざす教師像「ふるさとを思い　志をもち　社会へはばたいていく子どもたちのために　ともに学び続ける教師」をめざして、研修企画の充実に取り組んでまいります。

ＧＩＧＡスクール構想の推進においては、ＧＩＧＡスクール運営支援センターによる各学校への訪問支援を含めたサポート体制を継続し、校内のＩＣＴ活用推進に寄与しています。令和７年度末からは第２期１人１台端末の使用も開始され、今後は校務ＩＣＴの推進を含め、次なるステージを見据えた環境整備にも取り組んでいるところです。

学校教育の情報化の推進については、今年度は「活用充実期」の最終年でした。来年度から「活用発展期」へと移行し、いよいよデジタルでリアルな学びを支える段階をめざすこととなります。

児童生徒支援においては、不登校やいじめをはじめ、虐待や貧困など児童生徒を取り巻くさまざまな課題について、学校・保護者・関係機関との連携体制の充実に努めました。不登校対策専門委員会やいじめ防止対策推進委員会では、未然防止や早期対応の取組について有識者の皆様の御意見をふまえ、施策の充実を図りました。また、スクールソーシャルワーカーによる福祉部局や児童相談所など関係機関と連携した支援の強化に努めております。

誰一人取り残さない多様な学びの場の保障へ向けては、不登校児童生徒の支援として、サポートルーム「すなはま」はもとより、１人１台端末を活用したオンラインサポートルームの運営を継続し、遠隔でも学習支援が可能な環境を提供しています。サポートルームでは、教科学習はじめ創作活動・ふれあい体験など、児童生徒の直接体験からの学びも大切にした活動を実施しました。今後も学校や保護者との連携を図りながら、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立することをめざし、個別のニーズに応じたさらなる支援の充実に努めてまいります。

末筆ながら、総合教育センターの今年度の運営に対し、格別の御協力と御支援を賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも、より一層の御指導・御支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

令和８年３月

鳥取市総合教育センター
所　長　　狩野　司

ー目　次ー

はじめに

Ⅰ　鳥取市総合教育センターの概要

１　設置の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２　沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
３　組織及び業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

Ⅱ　令和７年度の事業概要

【研修企画係】
１　教職員研修のねらい・実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
２　教師力サポート研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
３　中堅教諭等資質向上研修　企画選択研修の事例・・・・・・・・・　７
４　ＧＩＧＡスクール構想事業の環境整備・・・・・・・・・・・・・・　９
５　若手育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

【児童生徒支援係】
６　鳥取市の不登校対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
７　鳥取市のいじめ防止対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
８　サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」、
　　オンラインサポートルームの運営・相談状況・・・１５
９　児童生徒交流体験事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

Ⅰ　鳥取市総合教育センターの概要

１　設置の目的

教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教職員の研修等を行うとともに、不登校等の児童生徒に対する指導及び支援を行い、教育水準の向上及び児童生徒の健全な育成を図る。

（「鳥取市総合教育センターの設置及び管理に関する条例」から）

２　沿革

平成１９年　４月　１日	鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例施行 鳥取市寺町１５０番地に鳥取市教育センター設置 「研修企画係」と「教育支援係」の２係体制 適応指導教室「すなはま」設置
平成１９年　４月２６日	鳥取市教育センター開所式
平成２０年　４月　１日	適応指導教室「けたかレインボー」気高町総合支所３階に移設
平成２８年　４月　１日	「特別支援教育係」を新設、「研修企画係」との２係体制
平成２８年１１月１１日	適応指導教室「けたかレインボー」鹿野町総合支所２階に移設 「レインボー」に名称変更
平成３０年　５月　１日	鳥取市教育センター内に「こども発達支援センター」開設
令和　２年　４月　１日	適応指導教室「すなはま」「レインボー」を サポートルーム「すなはま」「レインボー」に名称変更
令和　２年　４月２７日	「こども発達支援センター」市役所駅南庁舎１階に移設
令和　３年　４月　１日	鳥取市総合教育センターに組織改編 学校教育課から「児童生徒支援係」が加わり、「研修企画係」との２係体制 サポートルーム「かわはら」開設
令和　４年　４月　１日	サポートルーム「懐（ふところ）」開設
令和　５年　５月　１日	「オンラインサポートルーム」開設

３　組織及び業務

所長

研修企画係

所長補佐兼研修企画係長：１名
主査：２名、主幹：１名
指導主事：３名

- 教職員研修（基本研修、職務研修、サポート研修等）
- ＧＩＧＡスクール構想事業（環境整備）
- 児童生徒交流体験事業（郡山市・鳥取市小学生交流事業、中山間地域ふるさと体験活動支援事業）
- 情報モラル教育推進事業
- 教員用コンピュータ整備（更新等の対応）
- 体育館・研修室の管理と運用
- 教育情報の提供（HP、総合教育センターだより）
- 研修用図書等の貸出
- 県教育委員会、他部局との連携

児童生徒支援係

主査兼児童生徒支援係長：１名
主査：１名、主任：１名
指導主事兼教育相談員兼教育指導員：１名
指導主事兼教育指導員：３名
（少年愛護センター兼務）
スクールソーシャルワーカー：９名
教育指導員：４名
（サポートルーム「すなはま」）

- 不登校対策
- いじめ防止教育に関すること
- サポートルーム、オンラインサポートルームの運営
- 人権教育の推進
- 児童生徒交流体験事業（姫路市・鳥取市中学生交流事業、地域で学ぶ職場体験事業）
- 福祉関係機関との連携
- 「こころの相談電話」等の相談

Ⅱ　令和７年度の事業概要

【研修企画係】

１　教職員研修のねらい・実績

（１）ねらい

「ふるさとを思い　志をもち　社会へはばたいていく　子どもたちのために　ともに学び続ける教師をめざして」を基本方針に掲げ、学力向上、不登校やいじめ、問題行動等の未然防止に向け、一人一人の教育的ニーズに対応した教育の視点を基盤に児童生徒理解を深め、魅力ある学校・学級づくりに向けた研修を行う。

（２）実績（研修体系順）

	研修名 （コラボ開催を含む）	期日	形態	内容（講義題等）	講師	人数 （人）
基本研修	初任者研修① 新規採用養護教諭研修①	4/22	集合	鳥取市教職員としての責務と使命の理解 初任者相互の同僚性・協働性 初任者同士のネットワークの構築	鳥取市教育委員会事務局	37 名
	初任者研修②（１回目）	5/19～	授業公開 面談	初任者学校訪問 授業参観・初任者との面談・管理職との協議	鳥取市教育委員会事務局	31 名
	初任者研修②（２回目）	9/19～	授業公開 面談	初任者学校訪問 授業参観・初任者との面談・管理職との協議	鳥取市教育委員会事務局	31 名
	初任者研修③ 新規採用養護教諭研修②	12/5	集合	4 月からの実践を振り返って 事例研究、情報共有、教育実践への意欲づけ	鳥取市教育委員会事務局	36 名
	６年目研修①	5/20	集合	自己実現を目指し、組織の中で主体的に生きるためのヒントと、周りに人を巻き込むコミュニケーション能力の育成	学生人材バンク 代表取締役　中川玄洋	40 名
	６年目研修②	8/18	集合	学級活動（１）で育てる力について よりよい合意形成とそのプロセスについて	桃山学院大学 教授　松久眞実	40 名
	６年目研修③	10/30	集合	今求められる学力とは 授業改善のための課題と実践	鳥取県教育委員会 東部教育局	37 名
	中堅教諭等資質向上研修①	5/9	集合	自己実現を目指し、組織の中で主体的に生きるための修養の在り方 周りの人を巻き込むコミュニケーション能力の育成	元鳥取市教育委員 山脇彰子	38 名
	中堅教諭等資質向上研修②	6/26	集合	学級活動（１）で育てる力について よりよい合意形成とそのプロセスについて	米子市立和田小学校 校長　太田敦弘	37 名
	中堅教諭等資質向上研修③ 16 年目研修①	7/28	遠隔 （各校）	自律した学習者育成に向けた単元デザイン クラウドも活用した授業と家庭学習の連動について	鳥取市教育委員会事務局	48 名
	中堅教諭等資質向上研修④ 16 年目研修②（特別支援教育主任研修②・特別支援学級担任研修②とコラボ）	8/7	集合	困難さがある子どもの支援について 児童生徒の行動特性に対する理解 支援に対する基本的な考えと具体的方法について	鳥取こども学園希望館 スーパーバイザー　花川治応	47 名
	中堅教諭等資質向上研修⑤	10/24	集合	今求められる学力とは 授業改善のための課題と実践	鳥取県教育委員会 東部教育局	35 名
職務研修	校長研修①	5/22	遠隔 （各校）	いざというときのための備えとは 緊急時の対応の優先順位と校長の役割	鳥取県自主防災活動アドバイザー 北浦宏志	47 名
	校長研修②	8/4	集合	自己研鑽と組織経営 主体性を引き出し、組織を活性化させる経営者の心構え	株式会社　中井脩 代表取締役社長　中井太一郎	54 名
	副校長・教頭研修①	6/3	遠隔 （各校）	企業での人材育成の実態 組織をマネジメントとする上での心構え	株式会社清水 代表取締役　清水昭生	63 名
	副校長・教頭研修②	7/25	集合	災害発生時における地域や関係機関との連携と教職員の役割分担と連携体制、児童生徒への防災教育	元鳥取市危機管理課防災コーディネーター 漆原和弘	64 名

	研修名 （コラボ開催を含む）	期日	形態	内容（講義題等）	講師	人数 （人）
職務研修	授業づくり研修①	5/15	集合	自校の研究推進に向けた主任の役割について 子どもの主体性を引き出す学びの実際	島根大学 講師　下村岳人	52 名
	授業づくり研修②	11/11	集合	前期の取組の成果と課題の共有 子どもが身につけるべき資質・能力を確実に身に付けさせるための授業の在り方	島根大学 講師　下村岳人	55 名
	道徳教育推進教師研修	10/17	集合	道徳科における評価方法と個別の成長を促すための指導方法について 学校教育全体で推進する道徳教育の在り方	島根大学 准教授　塩津英樹	51 名
	情報化推進リーダー研修	5/8	集合	児童生徒が自ら学びを深めるためのＩＣＴ活用 ＩＣＴを活用した授業の構造や内容の変容による学びの深まり	鳥取県教育委員会事務局 教育センター教育DX 推進課	54 名
	学校司書研修	6/13	遠隔 （会場校）	地域の図書館と学校図書館の連携 学校司書が果たすべき役割	鳥取市中央図書館 館長　中島　泉	64 名
	講師研修①・基礎的研修①	5/12	集合	社会人としての基本姿勢 教員としての心構え	鳥取市教育委員会事務局	9 名
	講師研修②・基礎的研修②	6/2	集合	児童生徒の発達段階や心理的特徴の理解 子どもたちの様子から、その背景にある思い や困難を読み取る方法	鳥取市教育委員会事務局	18 名
	講師研修③・基礎的研修③	6/16	集合	保護者面談前に児童生徒の状況や学習成果を把握 する方法とその準備におけるポイント 給食指導における大切なポイント	鳥取市教育委員会事務局	11 名
	特別支援教育主任研修①	6/24	集合	特別支援教育における年間を見通した校内の推進体制づくりと関係機関との連携 全ての子どもが安心して学べる指導・支援の工夫	鳥取市教育委員会事務局	54 名
	特別支援学級担任研修①	5/29	集合	自立活動について 自校の課題と今後の指導・支援の在り方	鳥取市教育委員会事務局	55 名
	特別支援教育主任研修② 特別支援学級担任研修② （中堅教諭等資質向上研修④ 16 年目研修②とコラボ）	8/7	集合	困難さがある子供の支援について 児童生徒の行動特性に対する理解 支援に対する基本的な考えと具体的方法について	鳥取こども学園希望館 スーパーバイザー　花川治応	65 名
	特別支援教育支援員研修	7/3	集合	具体的支援につなげるための実態把握の在り方 個に応じた指導・支援の実態	鳥取県教育委員会事務局 特別支援教育課	63 名
	人権教育主任研修	6/10	集合	学校人権教育推進プランの改訂について 人権教育主任の役割	鳥取市教育委員会事務局	54 名
	教育相談コーディネーター研修	5/27	集合	教育相談コーディネーターの役割と校内体制づくり 子ども・保護者の支援につなげるケース会議について	各関係機関 鳥取市教育委員会事務局	55 名
	児童生徒相談員研修	4/17	集合	児童生徒相談員の職務と求められる役割	鳥取市教育委員会事務局	13 名
	外国語教育小中連携研修	6/17	集合	小中９年間を見通した外国語教育の授業づくり 小中連携して取り組む言語活動の実際	島根大学 教授　縄田裕幸	54 名
	特別活動主任研修	7/1	集合	子どもの思いが実現し、豊かな学校・学級の生活 を作る学級活動	元中国学級活動ネットワーク代表 椙田崇晴	52 名
ＩＣＴ活用指導力向上研修	ＩＣＴを活用した授業づくり研修	11/28	集合	活用充実期にめざす1人1台端末を効果的に活用した個別最適な学び と協働的な学びの充実と、クラウド利用による授業と家庭学習の連動	鳥取県教育委員会事務局 教育センター教育DX 推進課	53 名
	ＩＣＴ活用研修①（Google Workspace for Education 編）		ワークショップ	１人１台端末の日常的な活用の実際 クラウドベースでの学習アプリを活用した授業実践	鳥取市教育委員会事務局	
	ＩＣＴ活用研修② （ポータルサイト編）		ワークショップ	クラウドスペースでの学習アプリの効果的活用法 個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業づくり	鳥取市教育委員会事務局	
その他の研修	教職員人権教育研修	7/15	集合	本誌の人権教育に関する方針・施策の理解 いじめの対応について	鳥取市教育委員会事務局	37 名
	特別支援教育研修①		ワークショップ	Ｔ式ひらがなとは 具体的な支援の在り方	鳥取市教育委員会事務局	
	特別支援教育研修②		オンデマンド	児童生徒の実態把握の方法について 個別の指導計画作成と自立活動における指導の工夫	鳥取市教育委員会事務局	
	幼保小中連携研修	8/6	集合	特別支援の視点から発達段階に応じた適切な支援方法 特別支援教育の手法を取り入れた支援の実際	宮城学院女子大学 教授　梅田真理	110 名

２　教師力サポート研修

（１）教師力サポート研修

① ねらい

研修と学校をつなぐために、学校の課題に即したワークショップ型の出前研修や指導助言、校内研修等を提供し、教職員の指導力向上及び学校の活性化を支援する。

② 実績（令和７年１２月１２日現在）

	月 日	会場学校名	内　容	担　当
1	５月８日(木)	賀露小学校	鳥取市小学校長会第1回自主研修会（不登校）	児童生徒支援係
2	５月14日(水)	浜坂小学校	インクルーシブ教育システム構築に向けた取組	特別支援教育係
3	５月16日(金)	湖南学園	インクルーシブ教育システム構築に向けた取組	特別支援教育係
4	５月20日(火)	倉吉体育文化会館	県主催特別支援教育研修会	特別支援教育係
5	５月21日(水)	中ノ郷中学校	インクルーシブ教育システム構築に向けた取組	特別支援教育係
6	５月21日(水)	若草学園	職員研修会	特別支援教育係
7	５月26日(月)	浜村小学校	インクルーシブ教育システム構築に向けた取組	特別支援教育係
8	６月４日(水)	散岐小学校	校内研究会(アセスの効果的な活用について)	研修企画係
9	６月23日(月)	鹿野学園	義務教育学校校長会(教育課程)	指導係
10	７月２日(水)	散岐小学校	校内研究会(算数科)	特別支援教育係
11	７月４日(金)	宮ノ下小学校	校内研究会(算数科)	研修企画係
12	７月11日(金)	西中学校	第1回外部機関連携不登校等対策委員会	児童生徒支援係
13	７月15日(火)	美保小学校	校内研修会(家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト)	特別支援教育係
14	７月16日(水)	気高中学校	校内授業研究会(学級活動(1))	指導係
15	７月16日(水)	大正小学校	校内研修会(家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト)	特別支援教育係
16	７月22日(火)	久松小学校	校内研修会(今日の自分予報)	児童生徒支援係

17	7 月 22 日(火)	末恒小学校	校内研修会(児童生徒理解)	児童生徒支援係
18	7 月 23 日(水)	久松小学校	校内研修会(ICT 活用研修)	指導係
19	7 月 23 日(水)	日進小学校	校内研修会(特別支援教育)	特別支援教育係
20	7 月 24 日(木)	高草中学校	校内研修会(特別支援教育)	特別支援教育係
21	7 月 28 日(月)	湖山西小学校	校内研修会(児童生徒理解)	児童生徒支援係
22	7 月 30 日(水)	用瀬小学校	東部小教研生徒指導部会研修会 (いじめ・生徒指導)	児童生徒支援係
23	7 月 30 日(水)	江山学園	東部小教研情報教育部会 (教育 DX に関して)	研修企画係
24	7 月 31 日(木)	河原中学校区	河原中学校区教職員研修会 (アセスの効果的な活用について)	研修企画係
25	8 月 19 日(火)	気高中学校	気高中校区夏季研修会(特別支援教育)	特別支援教育係
26	8 月 21 日(木)	北中学校	校内研修会(今日の自分予報)	児童生徒支援係
27	8 月 28 日(木)	湖山西小学校	鳥取市小学校長会8月定例研修会 (問題行動・いじめの未然防止)	児童生徒支援係
28	9 月 16 日(火)	鹿野学園	校内研修会(ICT 活用研修)	研修企画係
29	9 月 24 日(水)	宮ノ下小学校	校内研究会(算数科)	研修企画係
30	9 月 30 日(火)	倉田小学校	校内研修会(家庭と教育と福祉の連携 「トライアングル」プロジェクト)	特別支援教育係
31	10 月 1 日(水)	浜坂小学校	校内授業研究会(授業を通じた 学級づくり)	指導係
32	10 月 1 日(水)	浜坂小学校	校内研究会(インクルーシブ教育)	特別支援教育係
33	10 月 17 日(金)	西中学校	第2回外部機関連携不登校等対策委員会	児童生徒支援係
34	10 月 22 日(水)	県民体育館	東部小教研生徒指導部会研修会 (生徒指導・不登校)	児童生徒支援係
35	11 月 11 日(火)	湖山西小学校	校内研修会(家庭と教育と福祉の連携 「トライアングル」プロジェクト)	特別支援教育係
36	11 月 12 日(水)	河原第一小学校	校内研修会(家庭と教育と福祉の連携 「トライアングル」プロジェクト)	特別支援教育係
37	11 月 19 日(水)	福部未来学園	義務教育学校校長会(教育課程)	指導係

38	11 月 26 日(水)	醇風小学校	西中学校区研究協議会第3回全体研修会 (総合的な学習の時間)	児童生徒支援係
39	11 月 27 日(木)	湖山西小学校	校内研修会(家庭と教育と福祉の連携 「トライアングル」プロジェクト)	特別支援教育係
40	11 月 28 日(金)	境小学校	特別活動中国大会・鳥取県大会 (学校行事部会:美保南小の実践発表に 対する指導助言)	指導係
41	12 月 4 日(木)	青谷小学校	校内研修会(家庭と教育と福祉の連携 「トライアングル」プロジェクト)	特別支援教育係
42	12 月 17 日(水)	気高中学校	校内授業研究会(学級活動(1))	指導係

（２） 成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○本年度は、生徒指導や特別支援教育の観点での研修依頼が多くあった。学校における生徒指導や個に応じた指導支援に対するニーズの高さによるものではないかと考えられる。生徒指導や特別支援教育に関する校外研修も開設しているが、それぞれの学校の実態に合わせてオーダーメイド型サポート研修を行うことは、校内における実践の伴走型支援となっている。

▲サポート研修の依頼がある学校数については、昨年度同時期と比較して大きく増えてはいない。県実施の訪問型研修を活用している学校もあるが、「研修と学校をつなぐ」という視点から今後も利用促進に向け、広報に努めていくことが必要である。

◇学力向上、生徒指導、特別活動、ＩＣＴ活用等、学校や研究会からのニーズを把握して内容を検討するとともに、受講者自身がより主体的に学ぶ研修の運営に努め、効果を上げる。

３　中堅教諭等資質向上研修　企画選択研修の事例

（１）ねらい

①保育体験　：保育園・幼稚園・認定こども園における体験活動を通して、園児・児童生徒の実態や指導者の関わり方を把握し、義務教育への接続や教育活動に反映させる。

②地域貢献体験：地域での行事等の体験活動を通して、地域との連携や人とのかかわりの重要性を理解し、自校の教育活動に反映させる。

③指導助言体験：授業研究会で指導助言を担当することで、学習指導の専門的知識・技能の向上を図る。

（２）実績

対象者：４０名（３２校）
※小学校２５名（２２校）、中学校１３名（８校）、義務教育学校２名（２校）

①保育体験

体験先（学校・園）		人数（人）	内容	時期
保育園	富桑保育園 倉田保育園 賀露保育園 とうごう保育園 よねさと保育園 千代保育園 みやこ保育園 もちがせ保育園 ひかり保育園 すくすく保育園 いなば保育園 湖南保育園	１４	○園児との交流・保育体験 ・登園から給食、昼寝までの日常生活の補助 ・自由遊び、運動遊び、読み聞かせ等での交流 ・行事、制作、科学実験などの学習活動への参加 ・年長児クラスを中心とした保育参観および体験 ○職員との協議・情報交換 ・体験先の職員との保育内容に関する情報共有 ・公開保育後の意見交換および感想交流 ・現場の課題や実践に関する研究協議 ・幼保小中の連携強化に向けた協議 ○保幼小連携会議を通じた情報交換 ・「遊びと学びのつながり」をテーマとした演習・協議 ・中学校区内の保育園見学および保育体験の実施	７月 ～ ８月
幼稚園	さくら幼稚園 鳥取第四幼稚園 鳥取第三幼稚園 鳥取第二幼稚園 小さき花園幼稚園	８		
こども園	久松こども園 さとにこども園 こやまこども園 かんろこども園 わかば台こども園	７		

＜中堅教諭の声＞

○ドッジボールの作戦を子どもたちだけで話し合うなど、自分たちで考え行動する場面が多く見られた。年中児からの積み重ねで育まれた思考力や、仲間の答えを信じて「待つ」姿勢の大切さを、実際の交流を通して実感した。

○「やりたい」を「できる」に変えるため、遊びの中に学びの要素を組み込む工夫が印象的だった。スライム作りなどの体験を通じ、幼児期ならではの想像力や協同性が豊かに磨かれ、小学校以降の学習の土台が築かれていると感じた。

○不適切な行動も一方的に叱らず、まずは子どもの気持ちを聞くことで自尊心や規範意識を育んでいた。保育士の温かい声かけや個々の興味に寄り添った丁寧な関わりが、園児の安心感と活動への意欲を支えている。

○掲示物やイラストカードの活用により、園児が見通しをもって活動できる環境が整えられていた。入学後の生活を意識して手出しをしすぎず見守ることで、自立に向けたスモールステップが丁寧に踏まれている。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を基準に、学びの過程を大切にする保育が行われていた。結果だけでなく、人との関わりの中で育まれる社会性や積極性を見取る姿勢は、小学校の指導や評価にも通じる学びとなった。

○少人数を活かしたきめ細やかなサポートや、全員が理解しやすい視覚的な工夫が随所に見られた。これらの配慮は、入学当初の１年生や見通しをもちにくい児童への指導においても、活用できる有意義なものであった。

○園で育った自由な発想や主体性を小学校で途切れさせないよう、スタートカリキュラムの充実が必要だと感じた。幼保小中の教職員が共通理解を図り、学びの連続性を意識して連携を深めることが、子どもの力を伸ばす鍵となる。

②地域貢献体験

体験・活動先（公民館・場所等）		人数（人）	内容	時期
公民館活動	醇風地区公民館 津ノ井地区公民館	2	○敬老会における児童の演目披露と指導 ○納涼祭での児童によるクイズ大会の企画・運営	７月 ９月
地域団体	湖東グリーンゾーン推進協議会	1	○年間を通じた見守り活動への参画	通年

＜中堅教諭の声＞
○敬老会での演目披露や納涼祭でのクイズ大会に向けた指導を通じ、児童が自ら考え準備する主体的な態度を引き出すことができた。地域の方々に喜んでもらえる活動をプロデュースすることで、表現力や達成感を育む貴重な機会となった。
○公民館祭の前日準備から当日の運営まで児童と共に活動し、出店などを通じて直接地域に貢献する喜びを共有した。生徒たちが地域の方々と触れ合い、役に立っていることを実感できる活動は、児童自身の自己有用感を高める大きな糧となった。
○打合せの会合への出席やステージの設営・撤去など、行事の裏方として地域住民と汗を流すことで、地区の温かさやまとまりの良さを再認識した。学校と地域が一体となって行事を作り上げるプロセスが、信頼関係の深化に繋がると感じた。
○「湖東グリーンゾーン」などの年間を通じた活動を通じ、地域の方々がいかに長年にわたり児童生徒を温かく見守り、支えてくださっているかを改めて実感した。地域に「守られている」という安心感が、子どもたちの健やかな成長の基盤となっている。

③指導助言体験

指導助言対象	人数（人）	内容	時期
初任研	3	○初任研での授業づくりの協力や指導助言 ○授業者に寄り添った具体的な助言と配慮 ○児童生徒の実態に応じた視点の提示	９～１２月
校内授業研	6	○校内授業研究会での指導助言 ○模擬授業による実践的サポート	６～１２月

＜中堅教諭の声＞
○子どもへの関わり方と同じで、教え込むよりも相手の反応を見ながら助言し、自分で考えて言わせる大切さを学んだ。本人と対話を重ね、課題を明らかにしながら、より良い授業を展開するにはどうしたらよいかを共に考える姿勢の重要性を実感した。
○自身の経験や書籍の知識を根拠に、できるだけ具体的な助言を心がけるとともに、「自分であればこうするかもしれない」といった授業者に負担を与えない言い回しを意識する重要性を学んだ。板書の仕方やタイムマネジメントなど、相手に分かりやすく伝える工夫が不可欠である。
○「自分の実践ではこうだが、今回指導助言を行う学年ではどうするか」という視点で助言することの重要性を学んだ。6 年生での実践から得た学びを、1 年生など対象学年の発達段階や学級の実態に合わせて翻訳して伝えることの必要性を再認識した。
○指導案作成での相談や前日の模擬授業を通して授業のイメージをもたせるなど、構想段階から伴走する有効性を学んだ。ねらいや評価方法、言語活動の作り方といった授業デザインの視点を明確に共有し、事後研修まで一貫して振り返ることが、今後の授業改善に繋がると実感した。

（３）成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○保育体験を通じ「信じて待つ」支援を学んだ。園の学びを小学校へつなぐ重要性を再認識することができた。
○指導助言体験では、相手を尊重し「教えるのではなく考えを引き出す」対話や、負担を与えない言い回しの大切さを学んだ。
○行事参画を通じ地域の温かさを肌で感じた。生徒と共に地域貢献を行い、大きな達成感を味わうことができた。
▲園で見られた自由な発想を小中学校の授業にどう活かすかが課題である。学びを学校に持ち帰り、具体的な指導改善に繋げたい。
◇キャリア形成に応じた主体的な研修選択を継続する。体験の感想だけではなく、それによって今までとは異なる見方や考え方に繋がるよう、研修の目的をより周知するよう努める。今後は体験で得た学びを、各校での実践にどう還元させるかを重視した仕組みづくりを検討したい。

４　ＧＩＧＡスクール構想事業の環境整備

（１）ねらい

鳥取市ＧＩＧＡスクール構想に従い、ＩＣＴ環境の段階的な整備を推進しており、効率的な端末活用やデジタル・シティズンシップ教育の推進を通じ、児童生徒の学びを深めるとともに確かな情報活用能力の育成を図る。

＜鳥取市ＧＩＧＡスクール構想の目的＞

○１人１台端末と校内ネットワークを一体的に整備することで、一人一人の教育的ニーズに対応した誰一人取り残すことのない学びで、資質・能力を一層確実に育成できるＩＣＴ環境を実現する。

○ＩＣＴを効果的に活用した学びを推進し、１人１台端末を活用した授業改善をとおして、子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びを実現する。

（２）実績

①　ＧＩＧＡスクール運営支援センター

○１人１台端末など学校のＩＣＴ運用を円滑に行うため、業務委託により運用サポート、ヘルプデスクの運用を実施した。

②　鳥取市ＧＩＧＡスクール推進委員会の開催

○「鳥取市学校教育情報化推進計画」に則って、今後のＩＣＴ活用の推進や環境整備等について、幅広く検討することで、鳥取市ＧＩＧＡスクール構想をより多角的かつ計画的に推進することができた。

（令和７年度　３回実施）

③　次期１人１台端末の導入

○第２期ＧＩＧＡスクール構想に係る児童生徒１人１台端末の更新を行った。

④　モバイルルータ活用

○体育館や校外学習に活用できるよう、市立小・中・義務教育学校等にモバイルルータを計 70 台配布し活用している。

⑤　プログラミング教材の活用

○中学校でのプログラミング授業及び小学校でのプログラミング出前授業にて、プログラミングロボットを活用し、授業の充実に努めた。

⑥　ＭａｃＢｏｏｋの活用

○事務局で 13 台のＭａｃＢｏｏｋを管理し、他市との交流活動等で活用している。

⑦　Ｗｉ−Ｆｉによるインターネット接続環境整備費助成金

○Ｗｉ−Ｆｉによるインターネット接続環境のない家庭に対する支援として、接続環境を整備した家庭に対し、上限１万円を助成した。

対象：今年度小学１年生または今年度市外より転入してきた家庭など、令和６年度以前に本助成金制度の対象にならなかった家庭

（令和７年度　申請実績　４件）

⑧　クラウド型セキュリティサービスの活用によるセキュリティ強化

○学校ＩＣＴ端末の高速通信ネットワーク（ＳＩＮＥＴ）への接続を行っている。今後の端末利用の多様性を踏まえ、危険なプログラム等が含まれるＷｅｂサイトの閲覧を未然に防止するため、令和３年度よりクラウド型セキュリティサービスを導入し、セキュリティ対策を講じている。

⑨　授業目的公衆送信補償金

○授業の過程で他人の著作物を用いて作成した教材をＩＣＴ機器を活用して送信するなどしたときに、個別に許諾を得なくてもいいように費用補償を行った。

（３）成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○ＧＩＧＡスクール運営支援センターの運営を業務委託し、学校に整備している１人１台端末をはじめとするＩＣＴ機器のトラブル対応の窓口を一本化し、学校の負担軽減を図った。また、各学校において１人１台端末を積極的に活用できるよう支援（ヘルプデスクによる活用方法の助言等）を行った。

○鳥取市ＧＩＧＡスクール推進委員会を開催し、第２期鳥取市学校教育情報化推進計画改定に向けた協議を行うことができた。

○第２期ＧＩＧＡスクール構想に係る児童生徒１人１台端末について、滞りなく各学校に配布することができた。

▲ＩＣＴ端末のさらなる活用が図られるよう、引き続き、運用支援及び環境整備が必要である。

令和８年度に向けて

◇ＧＩＧＡスクール運営支援センターをタブレット端末を含むＩＣＴ機器に関する各種相談の総合窓口として引き続き運営し、学校の負担軽減と支援を図る。

◇インターネット接続環境のない家庭に対し、Ｗｉ−Ｆｉ環境整備に係る助成を行う。

◇鳥取市ＧＩＧＡスクール推進委員会にて、本市の今後のＩＣＴ活用推進及び環境整備を引き続き検討していく。

◇利用を終了した第１期１人１台端末について、再利用及び処分を行う。

５　若手育成

○講師研修

【講師研修①】

研修名	講師研修①	クラスコード	ag7yqrt	対象	講師経験3年以下の常勤講師、及び養護助教諭の希望者
期日	別途通知	会場	鳥取市総合教育センター	研修形態	ワークショップ
研修のねらい	教員の活動について具体的にイメージでき、自信をもって職務にあたることができるようなる。				
研修内容		講師等			
○社会人としての基本姿勢 ○教員としての心構え		鳥取市教育委員会事務局　指導主事			
コラボ等		午前開催		希望受講の可否	可
基礎的研修①　と合同開催とする。		午後開催	○		
備考	※講師研修①②③より一つ以上選択し受講。すべてを受講することも可。				

○「社会人として」「教員として」という視点で考える研修を行った。この内容は、教職経験が少ない講師にとって大切な内容である。同様の内容は初任者研修でも行っている。キャリアスタート期における教職員への研修として、今後も内容を検討していく。

○少人数での開催のため、話し合い活動もスムーズにできた。研修では受講者自身の経験を振り返り、互いに話し合い、今後の取組に生かせるよう、話し合う時間を多くとった。話し合いの時間を十分に確保することで教室以外の部活動等での場面や児童生徒の何気ない反応を思い出すことができていた。そのような気付きをもとに話し合えたことは、これまでの自分の取組を振り返るうえでよい機会となった。

○グループを決める際に事前に校内での担当内容を調べ、参考にした。そうすることで話をする際に共感的に聞いたり話したりできるよう配慮した。特に養護助教諭は２名しかいなかったので、ペアにしたことで学校での取組を共有し、自身の取組のブラッシュアップにつながるようなアイデアがもてるようにした。

【講師研修②】

研修名	講師研修②	クラスコード	ag7yqrt	対象	講師経験3年以下の常勤講師、及び養護助教諭の希望者
期日	別途通知	会場	鳥取市総合教育センター	研修形態	ワークショップ
研修のねらい	児童生徒の様子を観察し、その行動や言動から子どもが抱える問題や考えを理解する力を養う。				
研修内容		講師等			
○児童生徒の発達段階や心理的特徴を理解する。 ○子どもたちの様子から、その背景にある思いや困難を読み取る方法を学ぶ。		鳥取市教育委員会事務局　指導主事			
コラボ等		午前開催		希望受講の可否	可
基礎的研修②　と合同開催とする。		午後開催	○		
備考	※講師研修①②③より一つ以上選択し受講。すべてを受講することも可。				

○今回は児童生徒理解についての研修を行った。受講者ぞれぞれの経験は様々で、自身の経験を話すことができるほど生徒指導に関する知識や経験が十分ではない者もいるように感じた。そのため、話し合う場面において一部の受講者のみが発言している場面も見受けられた。来年度に向けて、生徒指導の観点でどのような内容を取り上げていくのが良いか検討をしていく必要がある。

【講師研修③】

○今回は給食指導と個別懇談に内容を絞って研修を行った。経験の少ない教員にとって指導方法に悩むことが多い内容であったため、受講者も積極的に受講することができた。

○単に講師の話を聞くのではなく、自身の日頃の取組の様子や自分だったらこうするという考えを交流し合い、共通する視点や様々な工夫に気付いた上で講義を聞くという流れで研修を行った。話し合う際も「おかわりは食べ終わった子どもから行うという対応についてどう思いますか」という具体的な例示を示し、自身の取組と比較しながら考えることで、話し合いの視点を焦点化した。受講者は悩みつつも実践をもとに、理由付けをしながら話し合うことができていた。

研修名	講師研修③	クラスコード	ag7yqrt	対象	講師経験3年以下の常勤講師、及び養護助教諭の希望者
期日	別途通知	会場	鳥取市総合教育センター	研修形態	ワークショップ
研修のねらい	保護者面談や給食指導など、学校でよくある場面での効果的な対応方法を学ぶ。				
研修内容		講師等			
○保護者面談前に、児童生徒の状況や学習成果を把握する方法とその準備におけるポイント ○給食指導における大切なポイント		鳥取市教育委員会事務局　指導主事			
コラボ等		午前開催		希望受講の可否	可
基礎的研修③ と合同開催とする。		午後開催	○		
備考	※講師研修①②③より一つ以上選択し受講。すべてを受講することも可。				

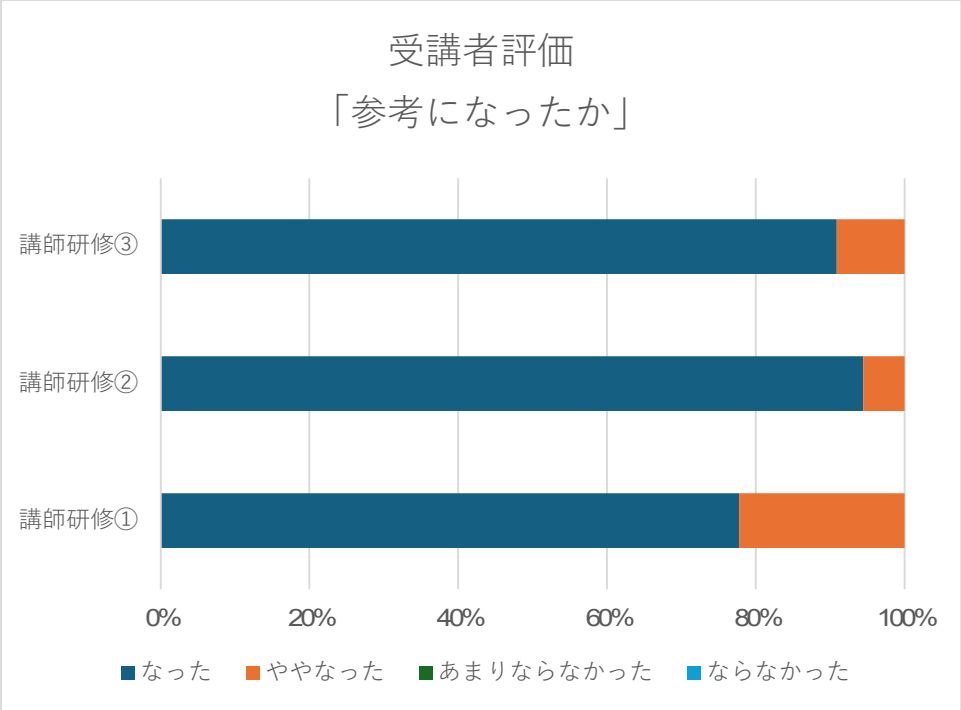
○今回は勤務校の学校種別でグループ分けを行った。給食指導においては発達段階で現状も異なると考えたためである。このことにより互いの学校の状況を知る学びの機会となった。

【全体を通して】

○今年度、講師研修の在り方を変えて、３講座企画した。その中で１講座以上受講するシステムとし、自身の課題にマッチした内容の研修を受講できるようにした。そのため、１講座毎の受講者数は少なくなったが、自身の課題に合った研修を選んだことで、主体的に受講する様子が見られた。

○研修では、互いの考えを話し合う場面を多く取り入れた。学校での経験をもとに自身の考えをアウトプットすることで日々の取組について振り返り、他者の考えをインプットすることで多様な考えに気付けるようにした。研修時間が１時間しかなかったため、時間的に十分とは言えなかった点が課題である。一方で３時半開会にしたことで、研修に参加しやすくなったと考える。

○今年度は講師研修を３回に分けて、テーマ毎のワークショップ方式で行った。受講者の振り返りをみても効果的であったと思う。若手教員の育成は現場での大きな課題の１つである。今後も事務局として可能な限り研修を実施し、若手教員支援を行いたい。



【児童生徒支援係】

６　鳥取市の不登校対策

＜重点取組＞

不登校児童生徒の支援ニーズを把握し、誰一人取り残さないように学びの機会を確保する

＜具体的な取組＞

不登校が生じないような学校づくり ＜未然防止＞

○豊かなかかわりによる「自己有用感」の育成

【学校】
・確かな学力定着に向けた「魅力と徹底」を意識した児童生徒の主体的な学びの実現と協働的な授業づくりの推進
・特別活動を軸にした児童生徒の自発的・自治的な活動の推進
【市教委】
・教職員研修の充実（授業づくり・学級づくり等）
・「笑顔あふれる自治力育成研究事業」
・鳥取市 Smile（いじめ防止）プロジェクト
・学力向上推進事業
【地域社会】
・地域での居場所づくり

○全児童生徒を対象にした実態把握と教育相談

【学校】
・児童生徒アンケートや面談等による学級集団及び個人の実態把握と課題に応じた指導・支援
・ICT を活用した児童生徒の不安や悩みの把握
・SOS の出し方に関する教育の充実（例：ソーシャルスキルトレーニング、SEL、SC による一部の学年等の全員面接や授業等）
【市教委】
・教職員研修の充実
　教育相談コーディネーター（CO教員）研修及び支援人権教育主任研修
・中学校区及び校内研修への支援
【地域社会】
・地域からの情報収集

不登校やその傾向にある児童生徒に対する効果的な支援の充実

○個々の児童生徒の状況に応じた支援

【学校】
・アセスメントシートを活用した組織的・計画的な支援
・ICT を活用し、児童生徒の不安や悩みの早期発見、早期対応の充実
・SC 及び SSW、LD 等専門員についての児童生徒や保護者への周知
【市教委】
・SSW の巡回訪問
・アドバイザーによる不登校支援事業
・保護者等を対象にした相談活動の充実
・関係諸機関との連携
・SC 配置事業（県教委）の活用
【地域社会】
・学校ボランティアによる見守り、家庭支援

○多様な教育機会の確保

【学校】
・学級以外の学びの場（相談室、校内サポート教室等）の活用
・ICT を活用した個別学習支援
【市教委】
・市内4か所のサポートルーム（すなはま・レインボー・かわはら・懐）の運営
・オンラインサポートルームの運営（ICT を活用した学習機会の保障等）
・児童生徒相談員及び特別支援教育支援員（市）、学校生活適応支援員（県）の配置
・自宅学習支援事業（県事業の活用）
・市認定フリースクール連絡協議会や夜間中学との連携
・フリースクール通級児童生徒の保護者への利用料助成（鳥取市フリースクール利用料助成事業）
【地域社会】
・学校ボランティアの協力

7　鳥取市のいじめ防止対策

＜重点取組＞

「つながる」　人を大切にする集団づくり

＜具体的な取組＞

いじめが生じないような学校づくり ＜未然防止＞

○児童生徒の自発的･自治的な活動による「絆づくり」の推進

【学校】
･特別活動を軸にした児童生徒の自発的･自治的な活動の推進
･道徳や学級活動を中心とした生命や人権を大切にする学習の充実
【市教委】
･鳥取市 Smile(いじめ防止)プロジェクト
･「笑顔あふれる自治力育成研究事業」
･教職員研修の充実(授業づくり･学級づくり等)
【地域社会】
･地域での居場所づくり

○全児童生徒を対象にした実態把握と教育相談

【学校】
･児童生徒アンケートによる学級集団及び個人の実態把握
･ICTを活用した児童生徒の不安や悩みの把握
･SOS の出し方に関する教育の充実(例:ソーシャルスキルトレーニング、SEL、面談週間、SC による一部学年等の全員面接や授業等)
【市教委】
･教職員研修の充実
　人権教育主任研修
　教育相談コーディネーター(CO教員)研修及び支援
･情報モラル教育推進事業
･中学校区及び校内研修への支援
【地域社会】
･地域･家庭からの情報提供

いじめ解消にむけた取組 ＜早期発見・早期対応＞

○個々の児童生徒の状況に応じた指導･支援

【学校】
･児童生徒アンケート等をもとにした組織的･計画的な支援
･ICTを活用し、児童生徒の不安や悩みの早期発見･早期対応の充実
･いじめの積極的認知と指導･支援
･いじめ事案の情報共有と引き継ぎの徹底
･SC 及び SSW、LD 等専門員についての児童生徒や保護者への周知
【市教委】
･SSWの巡回訪問
･専門機関との連携
･SC配置事業(県教委)の活用
【地域社会】
･専門機関による支援
･地域人材による見守り

○組織対応の充実

【学校】
･学校いじめ防止基本方針の改訂及び周知
･校内いじめ防止対策委員会の開催による組織的対応(定例会議の開催等を位置付ける等)
･校内研修の充実
【市教委】
･「鳥取市いじめ防止対策ハンドブック」改訂及び周知
･小･中学校校長会、教頭会、特別活動部会、生徒指導部会との連携と情報伝達
･教職員研修の充実
･学校への指導助言
･県教育委員会との連携
【地域社会】
･地域･家庭での研修
･学校運営協議会での情報共有及び意見交換

８　サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」オンラインサポートルームの運営・相談状況

（１）見学・体験・入級利用状況

※令和８年３月１９日
サポートルーム修了式時点

①　見学・体験・入級児童生徒数

（人）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
小１	義務前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小２		0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2
小３		1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	2	2
小４		0	0	1	1	0	2	2	2	2	0	1	2
小５		3	3	4	3	3	5	5	5	6	7	8	8
小６		0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0
中１	義務後期	1	1	0	1	0	3	3	1	2	3	2	3
中２		2	2	1	2	2	4	6	6	5	8	9	8
中３		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		8	8	8	9	7	18	21	18	18	22	24	26

②　見学・体験・入級児童生徒の延べ人数

（人）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
小１	義務前期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小２		0	0	0	0	0	1	2	6	7	5	7	6	34
小３		6	12	13	7	4	16	16	9	12	7	14	7	123
小４		0	0	4	4	0	6	2	3	2	0	1	1	23
小５		11	29	35	21	10	46	52	41	52	48	60	52	457
小６		0	0	0	0	0	0	2	4	0	1	0	0	7
中１	義務後期	1	1	0	0	0	10	19	13	12	2	15	12	85
中２		7	15	17	16	8	27	30	35	22	24	37	34	272
中３		5	14	15	10	3	14	16	10	12	12	12	7	130
合計		30	71	84	58	25	120	139	121	119	99	146	119	1131

③　見学・体験・入級児童生徒の１日当たりの利用人数

（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 平均
開室日（日）	7	17	20	14	7	19	21	16	18	15	16	16	186
１日平均（人）	4.00	4.59	4.20	3.86	3.29	6.84	7.05	7.56	6.61	7.20	9.69	7.44	6.03

※見学・体験・入級児童生徒数に「オンラインサポートルーム」は含まない。

（２）令和７年度入級・在級状況

① 在級児童生徒数

（人）

	小学校・義務前期						中学校・義務後期			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
すなはま	0	1	1	1	4	0	1	5	1	14
レインボー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かわはら	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンラインサポートルーム	0	0	0	0	1	0	2	5	7	15
合計	0	1	1	1	5	0	3	10	8	29

② 在級児童生徒の状況

（人）

0		小学校 義務前期	中学校 義務後期
学校復帰	教室	0	1
	相談室	0	0
学校と併用	教室	1	0
	相談室	0	4
	放課後登校等	1	1
サポートルームのみ		5	1
その他		0	0
合計		7	7

（人）

サポートルームの活用状況		小学校 義務前期	中学校 義務後期
週に３～５回程度	午前中心	1	1
	午後中心	0	0
	１日	3	1
週に１～２回程度	午前中心	0	0
	午後中心	0	3
	１日	3	1
学校復帰　他		0	1
合計		7	7

※「レインボー」「かわはら」は相談に応じて午前中のみ開室。　※「オンラインサポートルーム」は含まない。

＜オンラインサポートルームについて＞

市内の小・中・義務教育学校の児童生徒のうち、学校、フリースクール等に通っておらず主に自宅で過ごし、十分な学習等が行えていない児童生徒を対象に開設している。

ｅラーニング教材を活用し、総合教育センターの教育支援員が児童生徒の学習状況を確認したり面談をしたりして支援をしている。１か月に 1500 分以上ｅラーニング教材で学習する利用者もおり、自分の目標を意識して取り組んでいる様子がうかがえる。

教育支援員との月に１回の面談で総合教育センターに来所することにより外出の機会が確保され、センターに設置してあるサポートルーム「すなはま」の見学や体験につながる例もある。

（３）活動内容

サポートルーム「すなはま」 一週間の予定表

		月	火	水	木	金
午前	9:30～9:45	来室・読書・今日の学習予定を決める				
	9:45～10:00	朝の会・ラジオ体操				
	10:00～10:50 ①	自主学習	ふれあい活動	自主学習		
	10:50～11:00	休けい		休けい		
	11:00～11:50 ②	自主学習		自主学習		11:00～11:20 自主学習 11:25～11:35 そうじ 11:40～11:50 読み聞かせ
	11:50～12:00	すなくまタイム		すなくまタイム		ふりかえり
午後	12:00～13:00	昼食（おべんとう）・休けい				12:00 帰宅
	13:00～14:10	学び合い活動	ふれあい活動	学び合い活動	スポーツ（体育館）	
	14:10～14:30	自由活動・ふりかえり・帰宅				

＊金曜日の午後はチャレンジ登校(個別に設定)　＊毎月最終金曜日は閉室

① 学　習

・学習する部屋の場所やパーテーションの配置を工夫し、通級生が集中して学習に取り組める環境づくりに努めた。
・必要に応じて予定をホワイトボードに書くなどし、見通しがもてるように支援した。学習の定着が十分に図られていない児童生徒に対しては、学校と情報共有し、本人に合った教材の提供をお願いした。また、すなはまからそれぞれに合った教材の提案も行った。
・９月以降、週に２回程度、児童生徒の英語と数学の学習支援を行うため、基礎学力定着支援事業を活用した。
・学習内容は、個別に教育指導員と相談して学習計画を立てた。
・午前中は自分のめあてにそって学習計画を立て、学習を進めている。

② 学び合い活動

・生活経験を広げるとともに、人との関わり方や社会性を培うことをねらい、月・水曜日の午後に学び合い活動の時間を設定した。
・保育園やデイサービスの方との交流に向けて、学習したことを生かしながら協力して準備を行うなど、児童生徒が関わり合う場面を設定した。
・調理活動や制作活動、すなはま農園作業等、年間を通して計画的に目的意識をもって取り組んだ。

③ スポーツ

・体力向上と心身のリフレッシュをねらい、木曜日の午後にスポーツの時間を設定した。
・体育館を走ったり、ストレッチをしたりして体ほぐしをした後、バドミントンを中心に運動を行った。
・スポーツを通して体を動かしたり、人と触れ合ったりする楽しさを感じることができた。

④ ふれあい活動

・「勤労生産的活動」、「創造・文化的活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」の４つの領域で年間計画に基づいて実施した。
・地域の施設や人材を有効活用し、地域のよさを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることをねらい、原則毎週火曜日に１日または半日を単位として設定した。

野外炊事

乗馬体験

交流活動（福部未来学園幼稚園）

【令和７年度　ふれあい活動一覧表】

期日	内　容	場　所	期日	内　容	場　所
5/13	調理実習① トーキングゲーム	総合教育センター	10/28	野外炊事と外遊び	鳥取市浜坂
5/20	太閤ヶ平ハイキング （雨天：近隣施設見学）	鳥取市東町	11/11	交流活動（福部保育園） 乗馬体験	鳥取市福部町 鳥取市浜坂
5/27	真教寺公園見学 飼育体験	鳥取市戎町	11/18	ニュースポーツ②	総合教育センター
6/3	消防署見学 市民体育館見学	鳥取市吉成	11/27	学びの発表会 （保護者参観日）	総合教育センター
6/10	ニュースポーツ①	総合教育センター	12/2	こども科学館サイエンスショー 室内ゲーム	鳥取市吉方温泉 総合教育センター
6/17	殿ダム・記念公園散策	鳥取市国府町	12/9	警察学校見学 湖山池情報プラザ見学	鳥取市伏野 鳥取市高住
7/1	調理実習② 缶バッジ作り	総合教育センター	12/16	調理実習③ まんだらぬり絵	総合教育センター
7/8	お茶体験 おもてなし	総合教育センター	1/13	わらべ館見学	鳥取市西町
7/15	ブルーベリー狩り 吉谷機械製作所見学	鳥取市里仁 鳥取市古海	1/20	木でものづくり 木のおもちゃ遊び	総合教育センター
9/2	和紙折り紙共同制作	総合教育センター	1/27	書道教室 昔遊び	総合教育センター
9/9	リンピアいなば見学 バードスタジアム見学	鳥取市河原町 鳥取市蔵田	2/3	国際交流	総合教育センター
9/17	県警本部庁舎見学 やまびこ館見学	鳥取市東町 鳥取市上町	2/17	高砂屋見学 NHK 鳥取放送局見学	鳥取市元大工町 鳥取市寺町
10/7	交流活動 （なないろデイサービス）	鳥取市二階町	2/18	調理実習④（お祝いランチ） 室内ゲーム	総合教育センター
10/15	アストロ宇宙教室 スノードーム作り	総合教育センター			
					計２７回

（４） 保護者・在籍校・関係機関との連携

①　教育相談・情報共有

・保護者との個別懇談を入級時に行った。
・学校との教育相談を入級時に行った。
・学校関係者、保護者の要望や必要に応じて、上記以外にも随時教育相談を実施した。
・「すなはまだより」（学校用・保護者用）を配付し、翌月の活動に見通しがもてるようにした。
・「来室状況報告」（学校用・保護者用）を送付し、来所回数や活動の様子について連絡した。

②　支援会議

・在籍校との連絡を密にし、場合によっては専門機関と情報共有をしながら、児童生徒の支援について連携を図った。

③　参観日

令和７年１１月２７日（木）
午前の部 10:00～12:00　午後の部 12:50～13:30

・自由参観とし、午前中は普段の個に応じた学習、午後は「学びの発表会」を公開した。「学びの発表会」では、児童生徒が主体となり、進行をしながらこれまで学習してきた手話や読み聞かせ、ハンドベル等を保護者向けに披露した。
・４月から１１月までのサポートルームでの様子をまとめたスライドショーを児童生徒と保護者で鑑賞した。

④　保護者研修会

令和７年１１月２７日（木）13:30～14:30
『子どもとともに　ーまなざしの共有ー』
講師　鳥取市総合教育センター所長　　狩野　司

・サポートルーム「すなはま」に入級または体験している児童生徒の保護者だけではなく、学校の教員や参加の意向のある保護者を対象に実施した。
・参加者からは、「子どもにとって『そのままの自分でいいんだ』という安心感が何より大切だと感じた。」「親はつい焦ってしまうけれど、『待つ』気持ちを大切にして子どもを見守っていきたい。」といった感想があった。

⑤　個人ファイルの作成・活用

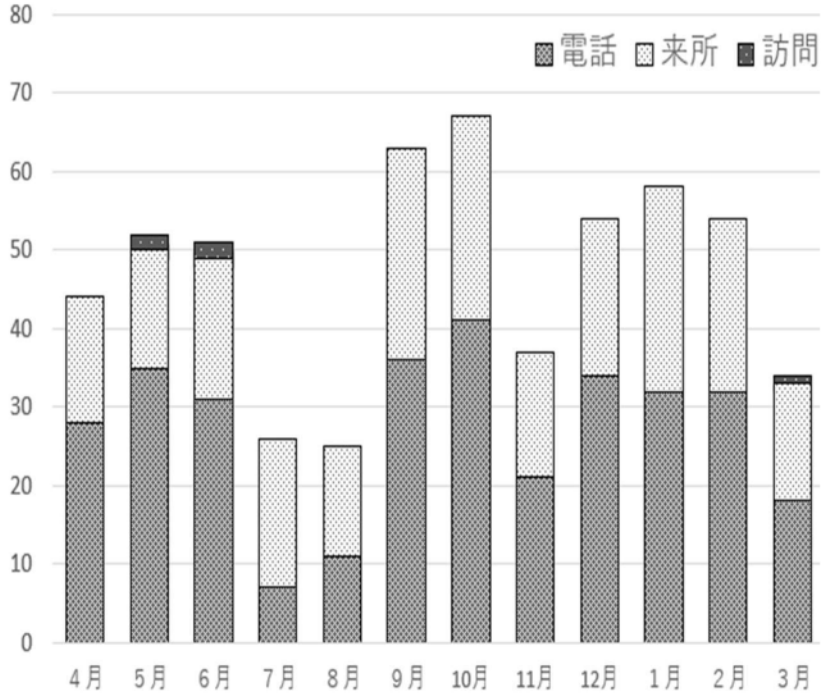
児童生徒の様子を記録するだけではなく、がんばりや変容、学校や家庭からの情報についても記録に残し、支援に役立てた。記録をデータ化することによって支援にあたる複数の職員が日々の様子を確認しやすくなり、個々の状況把握や声かけ、学校との情報共有等に活かすことができた。

（５）サポートルームに関する相談状況

①　相談件数（件）

	電話	来所	訪問	全体
４月	28	16	0	44
５月	35	15	2	52
６月	31	18	2	51
７月	7	19	0	26
８月	11	14	0	25
９月	36	27	0	63
10月	41	26	0	67
11月	21	16	0	37
12月	34	20	0	54
１月	32	26	0	58
２月	32	22	0	54
３月	18	15	1	34
合計	326	234	5	565

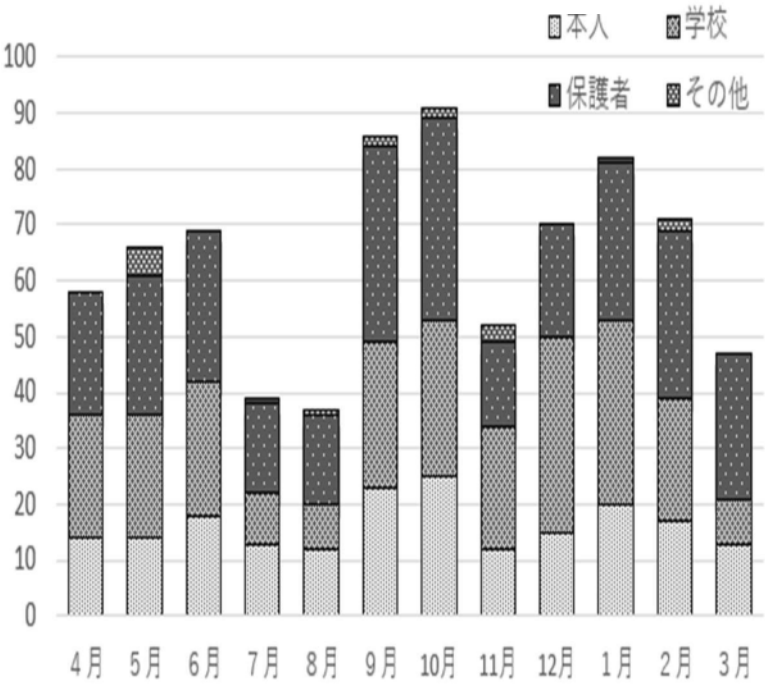
相談件数



③ 相談者の内訳（回）

	本人	学校	保護者	その他	合計
4月	14	22	22	0	58
5月	14	22	25	5	66
6月	18	24	27	0	69
7月	13	9	16	1	39
8月	12	8	16	1	37
9月	23	26	35	2	86
10月	25	28	36	2	91
11月	12	22	15	3	52
12月	15	35	20	0	70
1月	20	33	28	1	82
2月	17	22	30	2	71
3月	13	8	26	0	47
合計	196	259	296	17	768

相談者の内訳



（６）成果と課題　（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○個々の目標設定や支援のあり方については、学校、本人、保護者とサポートルームとで適宜相談し、本人のニーズに合わせて通級の頻度や時間等を決めている。個々の状況に合わせて学校復帰を目標にする場合は、計画的に学校へ行く回数や滞在時間を決めるようにしている。サポートルームを主な居場所として活用する場合は、継続して通所できるように取り組むことができた。

○学校にほとんど登校できず、主に自宅で過ごしていたが、サポートルームに通うことによって、学習に取り組んだり、様々な年代の友達と関わったりすることができるようになった児童生徒がいた。

○サポートルームやフリースクール等にも通えていなかった児童生徒が、オンラインサポートルームの学習を通して、月に一度の教育支援員と面談を行ったり、目標を意識して学習に取り組んだりすることができた。また、来所することにより、外出の機会確保や教育支援員とのつながりが生まれ、サポートルームの見学や登校にチャレンジする児童生徒も複数名いた。

▲今年度は、体験生を含めると３月末現在で２０名あまりの児童生徒が継続的に利用しているが、入級することがプレッシャーになる場合があることや、学校を主とした生活として意識づけるために入級しないなど、一人ひとりのニーズや実態もあり、見学・体験をした児童生徒数に比べて入級した児童生徒は少なかった。本人、保護者、学校と支援の状況をその都度確認するとともに、一人ひとりに合った支援や入級を含めたサポートルームの活用の仕方について具体的な見通しを立て、支援を進めていく必要がある。

▲オンラインサポートルームは、インターネットを介しての支援であるため、双方向のやりとりが難しい面がある。面談やメッセージ機能の活用を通して、児童生徒が立てた目標と学習内容や学習時間等を照らし合わせながら目標が達成できるような支援の在り方について工夫が必要である。

令和８年度に向けて

◇多様な教育機会の場として、サポートルームの周知を深め、児童生徒の実態に即した利用を学校や保護者に働きかける。

◇一人ひとりのニーズや実態に即した支援や指導がタイムリーに行えるよう、在籍校や保護者との連携をより密に行う。

◇オンラインサポートルームの拡充を図り、自宅で過ごし、十分に学習が行えていない児童生徒に学習の機会を提供するとともに、面談を通して本人や保護者の意向を確認しながらサポートルームの見学や体験につなげる。

９　児童生徒交流体験事業

（１）事業概要

＜姫路市・鳥取市中学生交歓会＞

① 目的

姉妹都市である姫路市と鳥取市の中学生がオンライン交流を行うことにより、お互いの市についての理解を深めるとともに、親睦を図りながら交流の輪を広げることで、姉妹都市の絆を深めることを目的とする。

② 実績

○日時
令和７年８月１日（金）
午後１時から３時３０分

○会場
鳥取市総合教育センター

○参加者
・生　徒　３４名（姫路市１７名　鳥取市１７名）
※鳥取市の参加者は、各市立中・義務教育学校後期課程から１名
・指導者　１３名（姫路市８名　鳥取市５名）　　◎参加者合計　４７名

○交流方法・内容
・Google　Meet を活用したオンラインでの交流
・両市の伝統や産業、食文化の紹介と姉妹都市交流活性化に向けた意見交換　等

＜中山間地域ふるさと体験活動支援事業＞

① 目的

鳥取市内の中山間地域（農山村）で生活体験活動を実施することで、豊かな人間性や社会性を育むとともに、ふるさとの自然や文化の素晴らしさや人の温かさにふれることで、児童がふるさとのよさを実感できるようにする。

② 活動の種類

○佐治町での農村暮らし体験を主とした宿泊体験学習、及び地域文化や伝統についての体験活動

○鳥取市中山間地域における上記に類する『五しの里さじ体験プログラム』を活用した活動等

③ 実績

○鳥取市立小学校１１校１０団体が実施
醇風小、城北小、明徳小、東郷小、明治小、世紀小、湖山西小、中ノ郷小、若葉台小、宮ノ下小、国府東小

○主な体験活動・・・・田舎暮らし体験(民泊)、佐治谷話体験、座禅体験、熊野神社散策体験、魚のつかみ取り体験、梨の袋掛け体験、竹パン作り体験、プラネタリウム体験、和紙はがき（紙すき）体験、林業体験、山王木工体験、等

＜郡山市・鳥取市小学生交流事業＞

① 目的

○姉妹都市である郡山市と鳥取市の小学生が交流を行うことで、両市の小学生相互の親睦を図る。

○交流をとおして、他の都市や学校を知り、自分たちの郷土や学校を見直すことでふるさとに誇りをもつ。

○東日本大震災被災地である郡山市に暮らす小学生と交流することで、郡山市応援プロジェクトでつないだ絆の太さを実感するとともに、ふるさと日本の復興に向けての思いや願いを一層育む。

② 実績

○面影小学校

交流校：郡山市立大成小学校

日　時：令和７年１１月７日（金）　午後２時００分から３時００分

内　容：・２０組のグループに分かれてのグループ交流

・自己紹介、市や町、学校についてスライドにまとめてクイズを交えて発表

・相互に質問、感想交流

○河原第一小学校

交流校：郡山市立橘小学校

日　時：令和７年１２月２日（火）　午前１０時４０分から１１時５５分

内　容：・８組のグループに分かれてのグループ交流

・自己紹介、市や町、学校についてスライドにまとめてクイズを交えて発表

・相互に質問、感想交流

○国府東小学校

交流校：郡山市立多田野小学校・河内小学校

日　時：令和７年１１月１９日（水）　午前１０時３５分から１１時２０分

内　容：・それぞれの県や市の観光・特産物と学校の特色についてスライドと動画にまとめてクイズを交えて発表

・相互に質問、感想交流

＜地域と学ぶキャリア体験活動（「ワクワクとっとり」）事業＞

① 目的

中学校区及び義務教育学校区を基盤とした地域社会の中で、生徒の主体性を尊重した様々な社会体験活動を実施することによって、地域社会の自立した構成員として共に生きる心や感謝の心を育む。あわせて、望ましい勤労観や職業観を身に付け、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指そうとする意欲や態度を育成する。また、鳥取市教育ビジョンめざす子ども像「ふるさとを思い　志をもつ子」の育成に向けて、保護者や地域の人々に「地域が一体となって生徒を育む」という意識の高揚を図ることで、学校・家庭・地域の協力体制を強め、すべての大人が子どもの育ちと学びを支える教育システムの創造と充実につなげていく。

② 実績

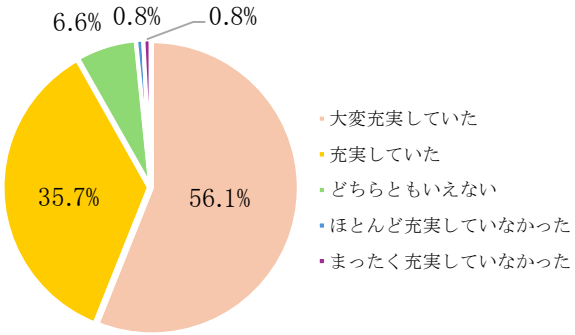
○対象者

鳥取市立中学校及び義務教育学校後期課程１７校の特定学年の生徒全員

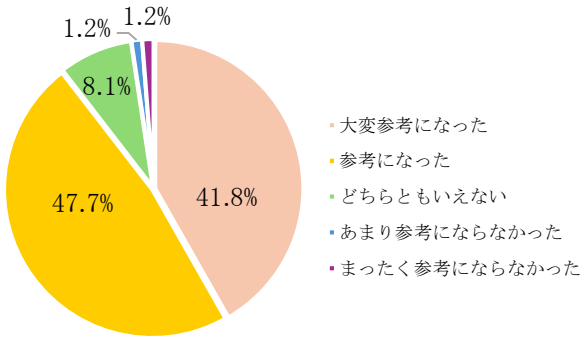
○実施内容

地域での職場体験活動や企業訪問活動など、各校で地域や学校の実態と生徒の発達段階を考慮した学習活動や体験活動を実施した。令和７年度は 1,523 名の生徒が本事業に参加し、延べ 515 事業所、785 名の指導ボランティアの方々に協力いただいた。

「あなたにとって、この活動期間はどんな期間でしたか。」



「体験活動にかかわる学習は、将来の生き方に参考になりましたか。」



※「地域と学ぶキャリア体験活動事業」 生徒対象事後アンケート結果より

（２）成果と課題（○：成果　▲：課題）

○姉妹都市交流では、姉妹都市交流の活性化に向けて意見を交流することを通して、姉妹都市交流の歴史を学び、伝統文化など両市の魅力を発見する機会となった。

○佐治民泊では、地域の方々との様々な生活体験を通して、児童はその地域の歴史や自然・中山間地域の暮らしや、自分の住んでいる地域への関心が高まった。また、昨年の反省を生かしてアレルギー調査票を見直したことで、トラブルなく実施することができた。

○郡山・鳥取市小学生交流事業では、寄付金で整備した１３台の Apple 社製 MacBookAir を活用することで、少人数グループ同士での交流を同時進行で行うことができ、より和やかで身近に感じることができる交流となった。プレ交流や今後の交流計画や、児童が MacBookAir を使って動画編集やより表現力豊かなスライドづくりをし、プレゼンテーション能力の育成につながる交流となった。

○「ワクワクとっとり」では、体験活動後のアンケートで約９２％の生徒が「大変充実していた」「充実していた」と回答しており、多くの生徒にとって達成感を味わうことができた活動となった。また約９０％の生徒が体験活動に関わる学習が将来の生き方に参考になったと回答しており、多くの生徒にとって望ましい勤労観や職業観を学び、自分の人生や生き方を考える機会となった。

▲中山間地域ふるさと体験活動では、児童数の減少により、単独で体験活動を実施できる学年や学校が減ってきた。学年・学校合同での参加や、隔年実施での参加となってきている。

▲郡山・鳥取市小学生交流事業では、MacBookAir 活用によるオンラインによる姉妹都市交流の好事例やノウハウを次年度の担当者や担当校に伝える機会を設け、さらなる工夫のもとで交流を充実させていきたい。

▲「ワクワクとっとり」では、生徒数や地域・事業所の実情によっては、学校が職場体験の受入先を確保することが困難な実態が依然としてある。公共施設や商工会議所等へ協力を要請しながら受入れ事業を確保し、生徒の体験活動を充実させたい。

令和７年度　所報第１９号

令和８年３月発行
発行所　　鳥取市総合教育センター
　　〒680-0053　鳥取市寺町１５０番地
ＴＥＬ　（０８５７）３６－６０６０
ＦＡＸ　（０８５７）２６－３８７８
Ｅ-mail　kyo-center@city.tottori.lg.jp
ＵＲＬ　https://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1190788717391/index.html

鳥取市総合教育センター
〒680−0053 鳥取市寺谷150番地